

『この一歩から』 ～ 『神戸の旅』 ～

2023 年 7 月 29 日『第 49 回がん哲学学校 in 神戸 メディカル・カフェ』（神戸薬科大学 地域連携サテライトセンターに於いて）に赴いた。『ひばりヶ丘駅→池袋駅→東京駅→新大阪駅→住吉駅』の旅であった。

筆者は講演【『この一歩から』～『変わり種の新しい種を蒔く』～】と その後の『メディカル・カフェ』の時間帯で、別室で 5 組の個人面談の機会が与えられた。香川県からも 80 代の男性も参加されていた。大いに感動した。

香川県立大川中学（現・香川県立三本松高等学校）の卒業生で東京大学総長を務めた南原繁（1889 年-1974）について さりげなく語った。【内村鑑三（1861-1930）と新渡戸稲造（1862-1933）と、この両者の大きな影響を受けたのが、戦後初の東大総長である南原繁である。新渡戸稲造は、日露戦争後 7 年間、第一高等学校の校長を務めているが、南原繁は新渡戸稲造校長時代の一高で学び、影響を受けた。一高時代、南原繁は『聖書之研究』を読み始め、東大法学部に入学後、内村鑑三の聖書講義に出席するようになった。東大卒業後の南原繁は、内務官僚から学者に転進し、ヨーロッパ留学を経て東大教授となり、政治学史を担当、政治哲学を深めていき重要な著作を発表する。そして戦争中は社会的発言は意識的に控え、ひたすらに学問に打ち込む。その態度をして、『洞窟の哲人』と呼ばれたほどである。しかし 1945 年 3 月 10 日の東京大空襲の前日に法学部長に就任、日本の敗色濃厚となった中で、法学部の有力教授たちと終戦工作を相談し、重臣らと接触した。そして戦後、東大総長に就任、国家の再建を呼びかけ、戦後改革の理想を掲げて、ことに教育改革に主導的役割を果たして行く。】

主催者の横山郁子先生と 7 人のスタッフの学生さんの真摯な心温まる おもてなしには、大いに感激した。

7 月 30 日は、東久留米市で「がん哲学外来・カフェ」と読書会である（画像）。新幹線の中では、今回の読書会の内村鑑三著『代表的日本人』の箇所【二宮尊徳（1787-1856）の 5 章「公共事業一般」】を再読した。大変有意義な貴重な『神戸の旅』となった。

がん哲学外来へようこそ

The Cancer Philosophy Cafe will meet 1-3 pm this Sunday (7/30) in the CAJ Multi purpose room, followed by the Book discussion group at 3-5pm at the East Side Cafe.

今週の日曜日 7月30日、がん哲学カフェが 1-3 pm CAJ Multi Purpose Roomであります。

その後、読書会がEast Side カフェにて3-5pmにあります。



寄り添う

YORISOU

Please contact Okio or Jean Hino for further information!
詳細は樋野先生かJeanさんにお尋ね下さい！